

	コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	603	畜産振興事務経費	会計	01	一般会計
			款	06	農林業費
基 本 策	43	伊賀ブランドの価値を高め、売り出す	項	01	農業費
			目	08	畜産業費
施 策	4	高付加価値化の推進	細目	101	畜産振興事務経費
			細々目	01	畜産振興事務経費
基本計画該当頁		163	行革大綱の重点事項番号		6・7
担当部課	コード	653500	評価者	澤井 成之	
	名称	阿山産業建設課	氏 名		
				連絡先	43 - 1544 (内線) 140

事業目的	対象等(何を、誰を)		成果(どうなるのか)	
	養豚組合の組合員 和牛肥育組合の組合員 (※対象件数)		優良種豚の導入を進め、優良な豚の販売が促進される。 優良素牛の導入を進め、優良な牛の販売が促進される。	
根拠法令・要綱等 支所関係補助金交付要綱				
開始年度	平成	年度	関連事業	
終了年度	平成	年度		
事業内容	家畜の防疫対策を図るため補助金を交付した。 和牛肥育組合(事業費の15%)、養豚組合(事業費の5%) 振興補助金 和牛肥育組合(視察研修・まつりでのPR)、養豚組合(ハエ駆除の実施・まつりでのPR) 素牛導入助成金 一頭当たり 3,800円助成 種豚導入助成金 人工授精及びLWIは、導入価格の5%を助成、 チュロックは導入価格の15%を助成			状況変化等
	平成21年度から和牛関係と予防接種関係の補助が本庁事務になった。			

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	

1 運営主体 委託先	☐ 直営 ☐ 指定管理 ☐ 民間委託等
	(_____)
2 配置(予定)人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

進 捗 状 況	年度						平成19年度 決算内容				平成20年度 決算内容				平成21年度 計画内容				平成22年度 計画内容				平成23年度 計画内容				平成24年度 計画内容							
							事業内容	数量	単位	金 額	事業内容	数量	単位	金 額	事業内容	数量	単位	金 額	事業内容	数量	単位	金 額	事業内容	数量	単位	金 額	事業内容	数量	単位	金 額				
委 託	⇔						補助金			(千円)	補助金			(千円)	補助金			(千円)	補助金			(千円)	補助金			(千円)	補助金			(千円)				
							助成金			550	助成金			401	助成金			68	助成金			68	助成金			68	助成金			161	助成金			161
							旅費・需用費			765	旅費・需用費			566	旅費			161	旅費・需用費			3	旅費・需用費			3	旅費・需用費			3	旅費・需用費			3
工 事	⇔																																	
進捗率 (%)							事業費計(A)		Σ	1,327	事業費計(A)		Σ	967	事業費計(A)		Σ	232	事業費計(A)		Σ	232	事業費計(A)		Σ	232	事業費計(A)		Σ	232				
事業投入人員							人件費(B)	0.2	人	1,440	人件費(B)	0.2	人	1,440	人件費(B)	0.2	人	1,440	人件費(B)	0.2	人	1,440	人件費(B)	0.2	人	1,440	人件費(B)	0.2	人	1,440				
フルコスト (A)+(B)										2,767				2,407				1,672				1,672				1,672				1,672				

(A)	事業費	1,327	967	232	232	232	232
A の 財 源 内 訳	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	受益者負担						
	その他						
	一般財源	1,327	967	232	232	232	232
	計	1,327	967	232	232	232	232
備考	その他特定財源の名称・補助基本額・率 地方債の区分と充当率等						

事業実績							
活動指標	単位	実績値				目標値	
		H19		H20		H21	H22
牛助成件数	件	目標	3	目標	3	—	—
		実績	3	実績	3		
豚助成件数	件	目標	3	目標	3	2	2
		実績	3	実績	3		
		目標		目標			
		実績		実績			

事業の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値		
			H19	H20	H21	H22	
予防接種対応頭数	対応頭数の増加が市場拡大の指標となる	頭	目標 実績	640 776	目標 実績	790 451	— —
素蓄導入頭数	頭数の増加が市場拡大の指標となる	頭	目標 実績	210 161	目標 実績	165 161	60 60

評価項目	ポイント	評価項目についてのコメント
必要性	4	優良素蓄の導入により、ブランドとしての維持発展が図られる。
有効性	3	優良な豚の販売につながる。 優良な牛の販売につながる。
達成度	4	研修・PR等、事業計画に沿い事業が実施されている。
効率性	3	事業費の一部補助として実施している。 農家負担軽減のための最低限の補助と考える。

総合評価	事業の方向性	改善についての取り組み
A	現状維持	牛糞の水稲生産への利用について検討していく。